

地域連携 News

Japanese Red Cross Otsu Hospital



新年あけましておめでとうございます。



平素は、当院の運営にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。コロナ禍で2回目の年越しとなりましたが、全国的には昨年秋頃の第5波以降は新型コロナワクチン接種率向上等の効果なのか、一旦落ち着いたように思われました。

しかし、年末からの第6波を想定した対応準備が急がれる中、オミクロン株が発生し国際間の移動が制限されるなど、今後も新型コロナウイルス感染症に対する継続的な対応が必要となってくると考えられます。

昨年、当院では新型コロナウイルス感染症拡大の影響による患者の皆様の受診抑制や院内感染防止対策を意識した入院の制限により手術の延期等を余儀なくされ、本来行うべき医療にブレーキがかかった状況が続き、地域の先生方には大変ご迷惑とご心配をおかけいたしました。新型コロナウイルス感染症への対応や課題を踏まえ、本年の診療報酬改定基本方針のひとつとして地域全体で医療の機能分化・強化、連携など、効率的で質の高い医療機能体制を構築することが重点課題とされています。当院もこれまでと変わらず地域の先生方とともに地域医療圏から求められている急性期医療の提供を継続して参ります。

本年、当院では救急や紹介患者の皆様への診療アクティビティの向上のため、高度救命救急センターや地域医療支援病院の機能充実を図るために設備の整備拡充を予定して

おります。ひとつは、内視鏡治療センターをリニューアルオープン（春頃竣工）いたします。X線透視装置2台の更新や検査室増室のほか、ニーズの多い鎮静下（セデーション）検査に対応したりカバールームの充実を図ります。その他の施設設備事業として、救急外来（ER）内CT検査装置設置や入退院支援センターの拡充整備を行い皆様の満足度の向上と診療機能の一層の充実を図ります。

私たちの掲げる理念に基づき、全職員が「心優しいプロの医療人」になることを目指し、地域で果たすべき役割やニーズを考えながら皆様とともに地域医療を支えて参りますので、何卒、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

皆様のご健勝と益々のご盛栄を心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



大津赤十字病院
院長 小川 修

